

送別会

明日はいよいよ天狗様とも一年の間遠くはなれなければならぬ七月十八日、この一年間を無事に天狗様がしぼられて早く帰つてこられるようにとの送別会を学校の広場で開催した。英語の校歌の後、まず校長先生が立たれて送別の挨拶をなさつた。又は *Spenshall*、*How* 殿村先生のあいさつ。望の先生代表あいさつ、*My Song*、*連藤君*の別れの詩朗読、栄光会代表中村さんのあいさつ。仰げば尊し等の後、いよいよ深くうしずまれた天狗様が別れにあつて大団圓のように云われ、いよいよ君達とも一年の別れだ。そして今日のこんな立派な送別会に参列させてもらつてとてもうれし。この今日の気分は、とてもことばで云い表わすことが出来ません。私は本当はアメリカへ行きたくはありません。しかし

殿村先生の御指示に従い、二列に並んでクリーヴランド号のついでに南緯船へと向かつた。そこでシユトルテ先生を囲んで記念写真と取り、クリーヴランド号を眺めていたり、シユトルテ先生との別離を惜しんでいた。やがて出発の時が来ると先生は生徒達と握手を交しながらデッキに現れた。乗船用の番が上からテアを投げられ、それについで、おつちこつちからも赤、青、黄、緑等色とりどりのテアが僕達の所へ投げられ、しかし、折からの強風にあおられて途中で流され、デッキの隅りに一杯と成り波のようにざわざわと動いていた。この一万八千トンのプレジデント・クリーヴランド号を見送る人は主に僕達で、あと、船尾の方に少しの人がいるだけ、そこを流田に投げじとお別れの歌を先ず *My Song* から始めて望の先生、仰げば尊し、*Spenshall*、*How* と歌つていった。先生は、万感胸にせまつたようにしんみりと泣かれ、いつもの元気がどこへやら、船上からは数多くの人が、めずらしきように僕達の歌つてゐる所を写真にとつたりして、歌が校歌になると先生は、今まで時々、僕達といつしよに歌つていたのをやめられ、別れが大変つらそうに見えた。

さらば天狗

一日でも遅くと願つていたシユトルテ先生御出発の日がとうとうやつて来た。初めの予定では七月十九日午後八時出発であつたのが都合により延期され、翌日となつた。二十日、二時半頃迄には、前日と同じく、多くの先生方や約百名の生徒がクリーヴランド号の所留しているアメリカン・フレジデント・ライン社の近くに集つた。午後四時頃、校長先生

堀口先生の御歸天

この半年を私達と一帯に、楽しくかつつに生活して又立派に御指導下さつた堀口先生は、去る八月八日友人と共に山中湖に行かれて、遊泳中突然心臓麻痺で亡くなられた。遺骨はすぐ故郷の長野に送られて、告別式が行われた。本校に於ても、去る九月二十二日、故郷口先生をしのんで、校葬が行われた。(第三頁見記)

校葬

九月二十二日の朝、私達は口組を先頭に御聖堂に入った。祭壇の前には優しい堀口先生の御遺体が、黒いリボンと生徒の持ちよつた美しい花々にかざられてあつた。すぐに吾等のロンドン御ミサが始つた。重藤の方も、畏前列に参列されていた。ミサ中には生徒の聖歌合唱があつた。ミサをおえて、一同外へ出た。九時二十分頃遺族を始め父兄も生徒も一帯に、聖堂内に入り各組の親長、副親長は花束を献じて玄壇に並んだ。式は、死者の歌に始つた。やがて校長先生の語があつた。それは、およそ次のようであつた。誰れでも人がいつ死ぬか分らないから、知人が急に亡くなれば

は、驚き嘆くものである。このたびも堀口先生が山中湖で突然亡くなられたことは、皆を驚かすに足りぬ。先生は三田の中頃一年の数学の先生として本校にいらつしやつて、この少い向にもまうたく立派な御指導をして下さつたのである。先生は生徒の指導に熱心であつたばかりか、運動も生徒と一緒に活ばつてやられた。先生は私たちにとつては親愛なる友であり、君たちにとつては敬愛すべき先生であります。このようにな立派な先生を失つて、今はみな淋しうに見えます。

死と云うのは別れをうける意味であります。人間は皆此の世から別れなければなりません。しかし、死はそれほど恐るべきものではありません。私たちのように偉大な希望を持つてゐるものにとつては、かえつてよるこぼしい日があります。即ち、死は恐ろしい幸福がはじまり、天の門が開かれる日であるからであります。死者の祈りにも、「冥に主を信するものは、命をうばわめるにあらずしこあらたのらるるなり。」とあります。又、聖書の中の一節を取つて見ますと、

ある時イエズス様は及ラザルの死を聞いてそこへ行かれまし。するとその姉妹のマルタが心かえにいらして、「主よここにいましたならば我が兄弟ラザルは死なざりしもの云。」と云われたので、イエズス様は「汝の兄弟ラザルは復活すべし」と云われまし。するとマルタは「我は彼が終りの日に復活するの

を知る。」と云へば、「彼は復活するなり、我を信する者は死すとも生くべし。又すべて生きて我を信する者は永遠に死することなし。」と云つてラザルを復活させられました。このように、人はこの世から別れてもそこには永遠の幸福が待つておられます。

ある日は堀口先生と二人で遅くまで勉強のことであつて、その時先生は「この栄光で学ぶことは生徒にとつても先生にとつても幸福です」と云われまし。故堀口先生は、本校の精神がよく介つて下さつたと私は思ひました。先生の御指導がよちを以て、真面目に考えさせられます。即ち、私たちは常に死の準備をしていなければならぬということ、美しく正しく生活すれば死を恐れないで進むこととであります。先生の御指導と教えを忘れないようにしましう。

こうして *Now my good to Me* の合唱のうちにかつたの花束は、代表者たちによつて先生の霊前に捧げられました。こうして十時に式をおえまし。

神に誓う

(3A)

聖母被昇天の大祝日であり、ガブエリオ来朝記念日に當る去る八月十五日、八時半、聖堂内の荘嚴な空気のうちに、校長先生は冷たい黒いマントを身にまとつて、祭壇に赴かれた。聖母と共に式は進み、やがて聖母再降の時、校長先生は神の御前に最後の誓いをお立てになつた。その前、ヘルヴェック神父様

は大要次のような御説教をなさられた。
「マリア様のエリザベト御訪向の時主を讃美してマゴニフイカトを唱えられた時の心と同様に今聖母を立てられるフオス神父様の心も、まづと感謝と喜びとで満たされている事でしょう。この聖母によつて世の悪とは全く反対の道をおゆむのであります。すからそれと積極的に戦わねばなりません。これはキリストの兵士となることあります。『吾輩もフオス神父の肩に前つて下さい。又御國の来たらん手を祈りましょう。』

ミサの後には皆で聖歌「聖母」を歌いマリア様を讃美した。式の後食事に行つて音楽室に於て校長先生の終生指導のお祝いの会を催した。聖歌「海の星」の合唱で始り祝辞(連勝 恭)、聖フランシスコの歌(合唱)「マゴニフイカト」(白石晃一君朗読)等があつてから、校長先生が感謝の詞を少し話された。そのお話によつて校長先生が増々偉大にせしめられる事を知つた。即ちあの誓願の中に、青少年の教育に力を盡すといふ事があつたからである。

こうして最後に日本語の校歌の合唱をして会を閉じた。

夏祭り

(3A)

我校に於ける年中行事の一つとして夏休み前の始まる前日夏祭りが催される。今年七月十七日、豊一つな日本晴れの天気の下で午後一時開始された。我校の祭りとは

普通日本で行われているように神楽を少ついでどんちんちゃんさわぎをやるのとはちがう。どの組も手によりをかけた傑作舞だ。先ず例年のように、天狗先生の司会と笑ひ方の練習があり、特に「教匠者」「二人羽織」「私誰でしょう」「友人のど自慢」「裏のお化け」等はよかつた。「教匠者」で、名倉博士多年の御研究の結果の名案こしようをふりまいた所々、「私は誰でしょう」で、今は亡き藤岡千以下先生方に、それぞれのニック・ネームにちなんだ品物を渡した所々ことにかくどの行事も先生方に対して日頃の思いを返すべく、各組とも頭をひねつたに違いない。たゞあまりに行事が多すぎて五時頃打ち切つてしまつたのは残念。このようにして先生方々校舎と二ヶ月間のお別れをした。(3A)

七月二十七日(水)うらめしき、つ、にきてから今日になつても出空をみない。午後四時中大会があつた。

七月二十八日(木)午前十時に賑々しく見えてうれしかった。堀口先生を霊前に詣り先生みな元氣ではしむまわつた。午後運動会があつた。パン食、買物、かめの子、めくら競争、リレー等競技は種々あつた。

七月二十九日(金)体がやけてヒリヒリするし泳げるようになって、水のおはさんは健康のためにお風呂をたてて下さつた。夜に女子大会があつた。パンケーキ、コーヒータバなどながらバレット先生のケヨンベイケヨンベイのふしのついたおどり、校長先生ヘルベック先生の合唱ものまね等生徒の方でもいろいろとやり笑いのうちにおわりなつた。

八月十五日、昨年末朝なされたフオルスター神父様別名「*Marie-Therese*」がヘルヴェック先生の後任として修善院の院長になられた。ヘルヴェック先生は院長としての仕事と責任とを譲り渡してから両手で儀等をしほられる様になつた。

八月二十五日(月)午前八時浦賀駅前集合。荷物をジープにあずけて、一路磯居に何つと浦賀駅から二十分半。そこは前に海岸、後は山をひかえ、芝生

新院長

(3A)

八月二十五日(月)午前八時浦賀駅前集合。荷物をジープにあずけて、一路磯居に何つと浦賀駅から二十分半。そこは前に海岸、後は山をひかえ、芝生

の庭には松の木が五六本。部屋は五つ、食堂、倉庫は別である。庭には五つの班にわけられた。ほくらは自分の部屋で荷物整理。お昼は台所のおばさん方がつくつた心のこもつたごはんをたべ、午後にはさつどく泳いだ。九時就床。

七月三十日(土) 今日はいよいよ最終日。で二日つづいた好天氣に游泳、ボート乗りに申し分なし。晝食には西山もついた。午後梅須嶺からヨットで校長先生のお友達が見えたので校歌をうたつておむかえした。みんなチヨコレートを一本づつもらつた。校長先生と少しお話をししてすぐに帰られた。帰る時お菓子をもらつて今まで三度々々のすいじをして下さつたおばさん万又興水さんのおばさんにも厚くお礼をいって解散した。

(16) 記

二年

八月一日朝八時半晴居のキヤンプに参加する二年生五十大名は、キヤンプがいよいよ始まる事と荷物をツープで運んでくれると云う「話せる」態度に嬉々としながら準備に出発した。キヤンプにつくとまずヘルグエツク先生から集団生活についての御注意があつてから、五班に分れ各部屋に入つた。昼からの水泳では先生に対する「復讐」の向四時にエネの脱走があり大勝の夕食後はかくし芸、釣巻、ピスチコアーなどに費やされた。朝のベジノウ先生の体操はいくらか「ロボット」体操ばかりだったので早速「ロボット」と云うあだ名をさしようといひし、エヴエレット先生は「エイズ」、ワグナー先生は「ビリビリンペン」などと近似合ひのあだ名がついてしまつた。ピスチコアー大会もさることながら、かくし芸大会にいたつては、ヘルグエツク先生の歌、本尾先生の謡曲

殿村先生と森本先生の「シヤモとナマス」の万才、ことに又某君のライター屋のまねなどはキヤンプ中「エイズ発火バリエリ」などと皆が云うほど上手であつた。

「復讐」大会は四日目の午後七時ごろから行われ、先生方全部を「逮捕」して内形劇場と直徑約六メートル、深さ二メートルの干上つた池に入れ、生徒達は手に手に棒を待ち先生が逃げ出さないように監視しながら先生方のおどる「チヤンバイチヤンバイ」と云うおどりに一半断かかつてためておいた湯飲を下げた。又三日目、四日目と兼いて行われた陸上競技大会、水泳大会などには、エネ大会の準備として大いにつけ、大いに泳いだ。最後の晩に行われたエネ大会には天狗におとらぬラツキヨ一御手懸のゲーキ、コ、アなどに舌ずつみを打ちまぜず飲みすぎで受持の悪くなつたほどキヤンプの「味」を味わつた。かくて第六日目の午後六時、おみやげとしてヘルグエツク先生の「おこごと」と一本づつのおみやげをもらつて、愉快かつ有益であつた六日間のキヤンプに別れをつけた。

(26) 記

三年

三年のキヤンプは八月八日からであつた。参加者は三十五人。朝の中廻り勝ちだつた天候も日の昇るとともに晴れて備産のキヤンプ開始を祝福するかのようであつた。第一日は荷物の整理をしたり

班をきめたりして、午前午後と二回泳いだ。海は奇麗だ泳ぎよかつた。夕食後海へ向つて、*Young* を歌つた。華かに流れる歌声は海のかなたのアメリカまで響いて行くかのようにおどやかな夕なぎの海面をすべつて行つた。後エイレノボス先生の実話劇があつた。内容より身振り言葉遣いの方が面白かつた。

(34) 記

二日目、水球をやつた。赤帽対黒帽で、黒帽優勢だつた。夜は本尾先生、ワグナー先生がいらいらつたので釣巻グリム童話「一打ち七人」、「アシジの聖フランシスコ」等、本尾先生の名詞子の解説によつて行われた。三日目、赤帽までの競泳(自由型、平泳、リレー)を行つた。四日目の夜は、手が黒帽の面目を大いに發揮して奮戦した。四日目は運動会があり、印紙に發するものとしてはパン食い競走は一位になつた人よりラストの人の方が皆を喜ばせた。ラストになり一人だけ取り残される非常にあせつてしまふ。あせればおせるほど息づかない。しまいにはいやになつてはづかしくなつてしまつた。後いよいよ動物狩りが始つた。細をもつて紙(ヘンヤヒシ)のまま、山猿他諸先生を一人づつ多敷をたのんで釣り上げる。そしてわうしよい

と海の浅い所に運んで行く。そして投げ出しては立ち上がつて来る所を水をひつかける。というふうな手荒な療治を行つた。ざんねんなことは馬はさすがに逃げ足が速くてつかまえることができなかったことである。

五日目、夕刻からエネ大会。ヘルグエツク先生自慢のゲーキを殆どの種々のエネあり。校長先生は田舎のじいさんのようななかつた。ラツキヨ一御手懸の立(創作)をやつて大がたさ(野崎参り)を舞いアンコールになりヘルグエツク先生と一緒にあどりをした。ベジノウ先生は杖子(蚤)で刺のような妙なものをした。即ち幾重にもなつた箱から杖子さん(笑は何もな)を取り出すまねに、高跳びするまね等をした。

(34) 記

六日目、午前中だけ泳ぎ、午後「皆さんはこの一週向をほんどに楽しんで遊びより(おき)かして栄光よく遊びより(おき)います。このキヤンプを忘れずにキヤンプの時と同じ受持で新学期にのぞめばともよい学期になるでしょう。」というヘルグエツク先生の御訓辭を最後に、午後三時退散した。

奨學金

八月九日、校長先生より本校生徒五名に対して奨學金が授与された。即ち奨學金三つのうち一つを一人がもらい、他の二つを四人で分けたのである。

(34) 記

那須の五日

校長、エヴエレット、ベレット、向井の四先生と、一行十名は八月廿六日から廿日

迄の五日間を那須山麓に過ごした。天氣にあまりめまされなかつたのは残念であつたが、毎朝校長先生のミサに与り、那須山に登山したり、温泉に入つたり、いろいろのゲームに興じたりなどして楽しい日々をおくつた。またこの時、毎年の要祭りに校長先生と天狗さんが元氣よく歌うあのドイツ語の「海賊の歌」の英訳が、校長先生によつてつくられ、他のいろいろの歌と共に声がかかる途つたわられた。

(34) 記

一夜で十数箇

去る廿一日夜東一円を愛つたキティ台風は、各地に大きな損害を齎したが、ぼくたちの栄光も亦不幸にしてこの例にも傷等大きな被害を蒙つた。海に面しているぼくたちの校舍は、風当りの強いだけに被害も大きく、破損しモガラスは向と二百三十余枚をかぞえ、合併教室では壁が倒れ、講堂ではトタンの部分の屋根がめくられる等、損害は十数万円に達した。その模様を *Journal* 先生にヘルグエツク先生は、フオロブス先生と一緒に扉が風でこぼれさけないように一生懸命つかか九に机ならべをやつていられた。翌日一週りしてみて一ばんみどかつたのは図書室で、窓ガラスも碎もみんなおぼされて内側に倒されてしまつた。どこからかやつてきて大暴れに扇れたライオンが、満足の舌なめずりをしている姿が見える。美しいな気が先生に回ると、全く強い風で校長

先生

人事異動

校長先生

今度校長先生が三任の英語をやめて一年生の古倫を受け持たれた。校長曰く、「人間は山猿から進化したのではない。」この説この頃一年生の豆科等者達の論議の集点となつてゐる。

堀口先生

一五ACDの数学を受け持つていた堀口先生、野球の時は、あの語のような大きな声で、ヌトライク！ボールと名審判、先主は泳ぎもまかつた。が山中湖で八月八日に亡くなりまし。このことは、一学年にとつて、学校にとつても悲しいことだ。僕達はもうあの元気に満ちた大きな声はきかれない。

ヘルウエク先生

天狗様が面白いかなとのアメリカに旅立たれたので後性をたつきようが引き受けられた。今までの経験によると運剣になつてやる積りで辛い判教の配給も時々あるらしい。

山根先生

初めて山根先生との対面の時にスルテン組に見えた。しかしおれつて見るとシワリ／＼としぼり出された。堀口先生に似て声が大きい。「言葉は多くて十歳少くとも五歳出す。」と約束された。しかし時にはうんざりするほど出されてこれははやさ

しいからと云つて過ぎましておられる。

IC 共記

天狗だより

我が愛する栄光の先生方、生徒諸君。

八十哩の道の旅と三十哩の道の旅を下して、八月十六日無事にフリーヴランドに着きました。機材を亡つた時の天狗の心は何とも云えない淋しく悲しい言葉でした。甲板から船長の一人一人の顔をも一度じつと見つめてもう言葉が出せなくなりました。もう泣き出さずにも言葉のマツホーが聞かれましたが返事が出来なくてなおつたらしくなりました。三十分してからはるかに学校の気配が覚えて天狗の心の慰安はなほ低くなりませんでした。猿を語りながら横須賀に最後の「さらば、又来年！」を叫びました。観音崎の燈台、鴨居、浦賢、三浦等の思い出の祭りにア日と浴びてとても美しくつたのです。日本を去るのはあれ程つらい事だと感わなかつた。来年度が帰る時どんなに嬉しい事だろうと今もう涙しみにしています。諸君が無事に来てあの心を打つ歌を歌つた事ほんとうにありがたうございませ。船上の各様は殆んど皆涙を流して泣いていらつたやうな感じがした。天狗もその中の一人です。

一日が二十三時間しかながつたこと。又八月二十五日は四十八時間の長い一日でした。此の一日の向日出と日没とは二回もありました。(そのわけは理科の先生に聞いて下さい。) 吾達によく悪口を云われたのもかかわらず船上の天狗は海に神様に一度も捧げ物を出しませんでした。多くの客は真直な顔をして食堂にも来なかつた時、天狗だけは二人前の食慾を以つてボーイさんを驚かせました。ハワイの木ノルルで十時間も泊りまじからゆつくりと見物しました。此れで生まれ初めて米國の領地を踏みました。自動車も多い事に驚きました。とても美しい島です。八月一日、いよサン、フランシスコに入港しました。霧が濃いため、あの有名なゴールデンゲート(黄金の門)を見る事が出来なかつたのは残念でした。祝詞と旅券の類の方はイエズス会の大学の卒業生であつたから私の手続は一掃早く済みました。サンフランシスコに五日間滞在しました。イエズス会の大学と中学もありました。サン、フ市はキレイな、景色のよい町です。自動車が多いように見えます。実は三人に自動車が一台中と云う事だです。大日の朝米國の最新の流線型の汽車(シエスタ、デイト、ライト、Shoofly)の山を、Boy fight までシメットルに向いました。此の汽車は素晴らしいものです。車の中は air conditioned (外は暑くても中はすずしい)です。暖炉は安楽イスよりも便利です。景色は

四〇〇〇米より高い山、深い谷、天狗の心を癒はせた。シメツトル Yachtie にもイエズス会の大学と中学があります。あくる日タコマ市に行つてイエズス会の中学校を見学しました。その翌日 *Bootham Pacific Railway* の特急列車でスポーアーン市に行きました。そこにもイエズス会の大きな大学と中学があります。ここも一日見学して今度 N. P. R. の最新特急(時速一時間 80-100哩)でシカゴに向いました。初時向米の泉原の汽車峠(殆んど 3000 米)を越えて五年雪におおわれたロツク山脈を見ながらフルスター神父様 (St. Francis) の故郷モンターナ州を通つて八月十三日の朝シカゴ市に着きました。ここはイエズス会の大学が、一、中学校が二つあります。シカゴ市はメックアグニー先生の生まれ所です。先生のお母様に二度も会いました。先生のアムパイメがりをよく話しました。十六日よいよフリーヴランド (Newland) 市に着きました。ここもイエズス会の大学と中学があります。しかし私はせちらへ行かないで町外れの静かな修道院に居ります。ここは十七日、左、前りと修養とを願ひています。そして心を十九日、新しい決心、新しい力を以つて来年度に再び会うつもりです。私は一生懸命にやろうと思ひます。どうか君達もしつかりやつて下さい。私は君達と共に居る向君達と共に希望よく勉強、修養、遊んで来たこともあつたし、又君達をうんとしかつて事もあ

つたが若しも私が君達の中の一人に不正にやつた事があつたらどうか此のつまらない天狗の手を悪く思わないで下さい。さて夏休みも終りまして君達が元受よく再び此のなつかしい校庭でさわいでいると思ひます。栄光の今迄の尊い伝統を守り、よりよく、立派な学校を校長先生、ヘルウエク先生の許に作つて下さい。君達はまだ若いのでまだ九が十分ありますから新しい、正しい日本を作る事が出来ます。神と人との二つの事をよく理解して尊厳のない、楽しい世界を君達の力で作つてみせて下さい。君達は此の大きな使命を立派に果たす事を私は固く信じて、又切に祈つて居ります。此の遠い米國の中央に居る天狗の事を忘れないうで時々私の心に祈つて下さい。私も君達の一人一人を求して忘れず来年度の日に君の元氣な姿を見るのを楽しみに待つています。その時まで君達の心配しているハナを大切にすることもです。ではこれでペンを置かばせていただきます。君達のお父さん、お母さんにくれぐれもよろしくお伝え下さい。しつかりやつて下さい!!!

さよりなら マツホー
八月二十一日 天狗

栄光中学校の諸先生方
生徒諸君